

問い合わせ先
海洋情報部環境調査課
主任環境調査官：下平 しむひら 保直 やすなお
電話 03-3541-3814(内線586)

平成17年9月12日
海上保安庁

遠州灘沖の黒潮大蛇行が終息

昨年7月に発生し、約1年続いた黒潮の大蛇行は、今年8月に終息しました。

海上保安庁では、航行安全、海洋レジャー等の安全確保及び海難救助に資するため、日本周辺の海況を海洋短波レーダーや船舶により観測し、毎週、海洋速報及び海流推測図として公表しています。

本州南岸を流れる黒潮の流路は、昨年7月以降遠州灘沖で大きく南に蛇行していました(図1、2)。しかし、今年8月中旬より蛇行部分が八丈島の東へ移動し、遠州灘沖で直進する流路(図3)となっており、現在も遠州灘沖では同様な流路になっています(図4)。このような流路の状態が約1ヶ月継続していることから、今回の黒潮大蛇行は8月中旬に終息したと判断しました。

黒潮流路(図5)は、船舶の航行に多大の影響があることから、海上保安庁では今後も黒潮流路の変動に注目していきます。

黒潮流路等の情報は、海上保安庁海洋情報部のホームページ

<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/>

で、海洋速報及び海流推測図としてそれぞれ毎週水曜日及び金曜日に提供しています。

また、海上保安庁では黒潮流路の変動のアニメーションを作成しています。必要な方は、政策評価広報室(03-3591-9780)までご連絡下さい。

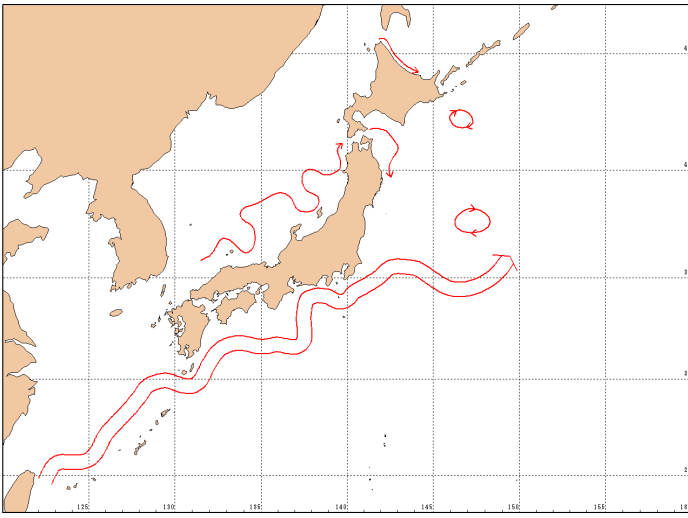


図1 大蛇行発生期 海洋速報 (2004/07/21 発行号)

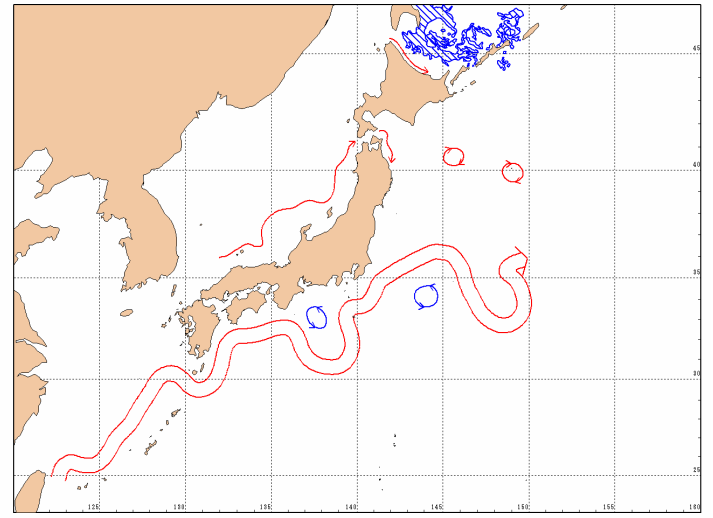


図2 大蛇行継続期 海洋速報 (2005/04/13 発行号)

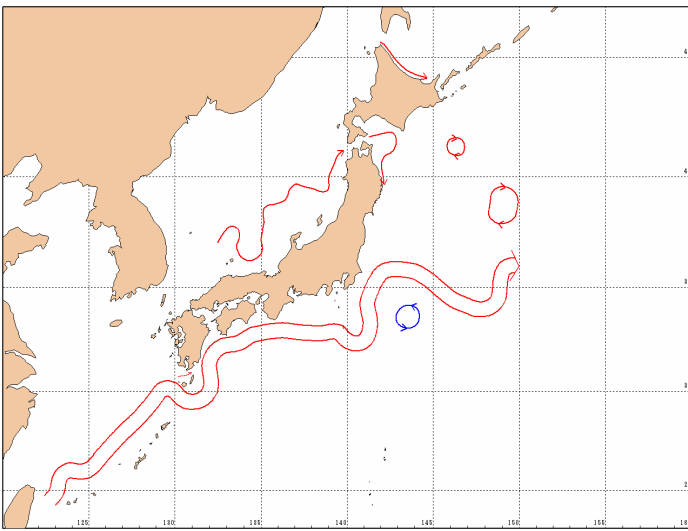


図3 大蛇行終息期 海洋速報 (2005/08/24 発行号)

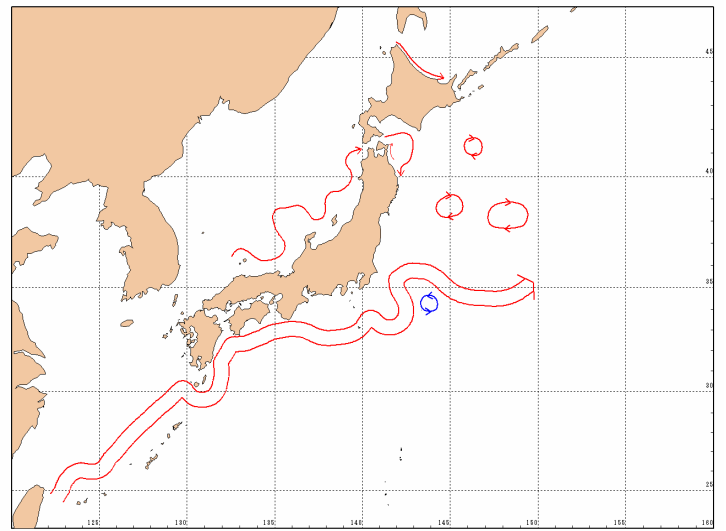


図4 最新版 海洋速報 (2005/09/07 発行号)

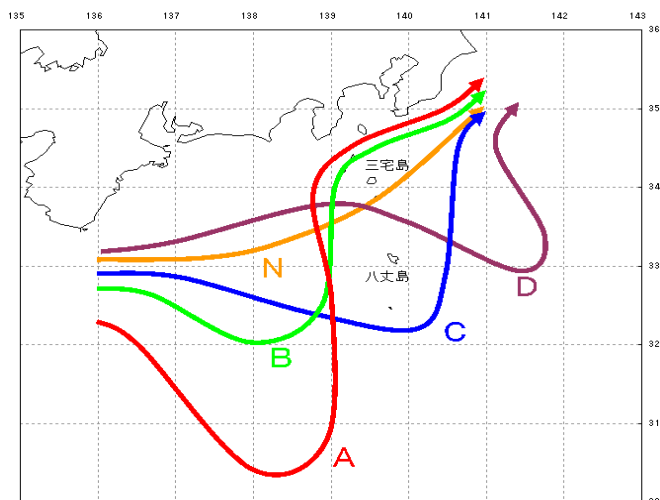


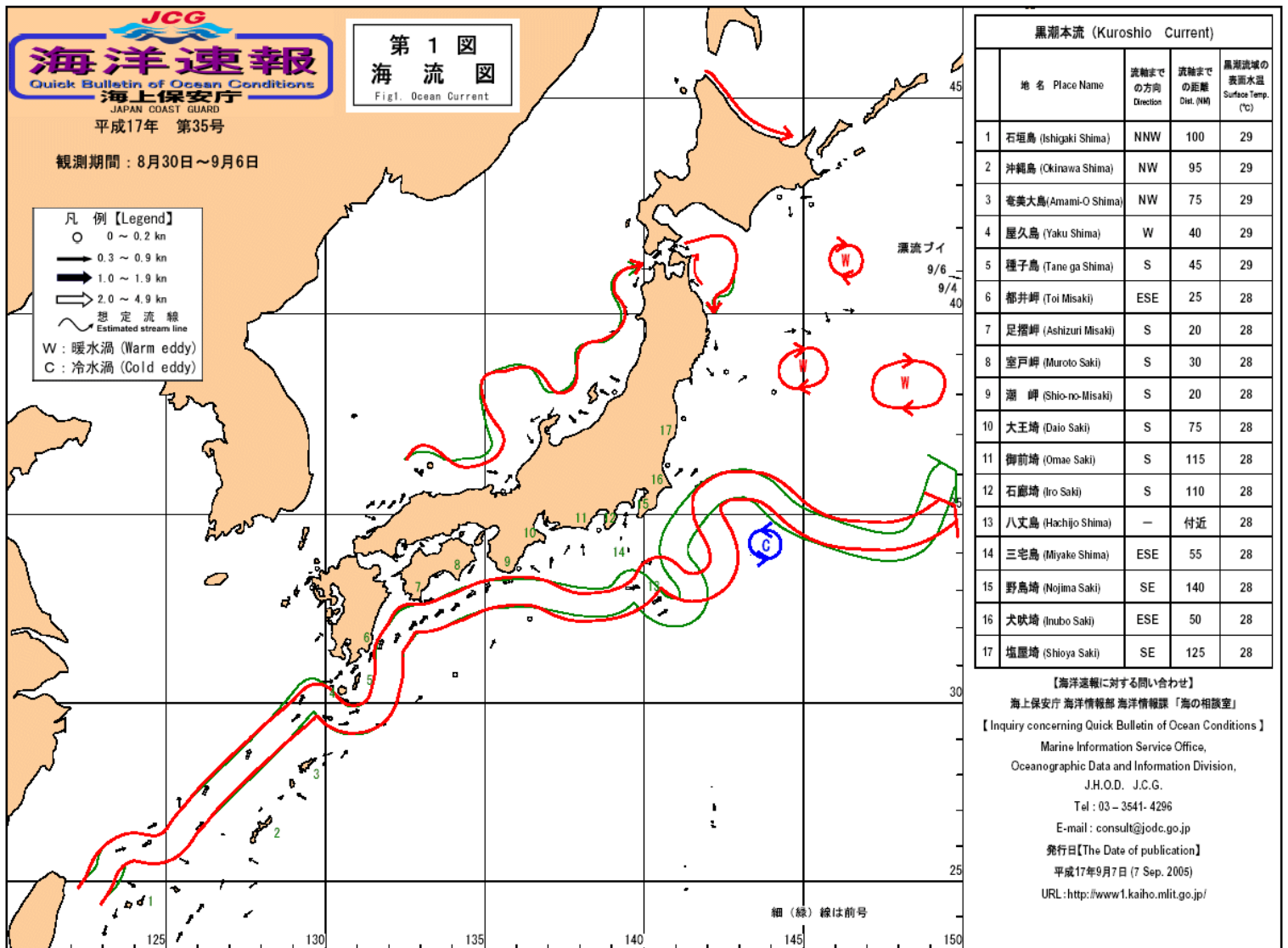
図5 黒潮流路の例

黒潮：フィリピンの東海上を北に流れ、台湾と石垣島の間を抜け、東シナ海から九州南岸を通り、四国から本州南岸を東に流れ、その後房総半島沖を通過し、本州東方海上へと流れていきます。黒潮の流速は3~4ノットもあり、船舶の航行に多大な影響があります。日本南岸の黒潮は、いくつかの流路をとることが知られており、その代表的な流路を以下に示します。

- A型： 遠州灘沖で大きく南に蛇行する時の型
- B型： 遠州灘沖で小さく南に蛇行する時の型
- C型： 黒潮が八丈島の南側を迂回している時の型
- D型： 黒潮が伊豆諸島の東の冷水渦を迂回している時の型
- N型： 本州南岸に沿ってほぼ直進して流れる時の型

(参考)

海洋速報 最新号 (2005/09/07 発行)



<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/>

黒潮海域短波レーダー

野島崎局・八丈島局より電波 (5MHz帯) を発射して、波浪の反射波を解析することにより海流を測定します。

八丈島局



送信アンテナ



観測局



受信アンテナ

